

VOL.77

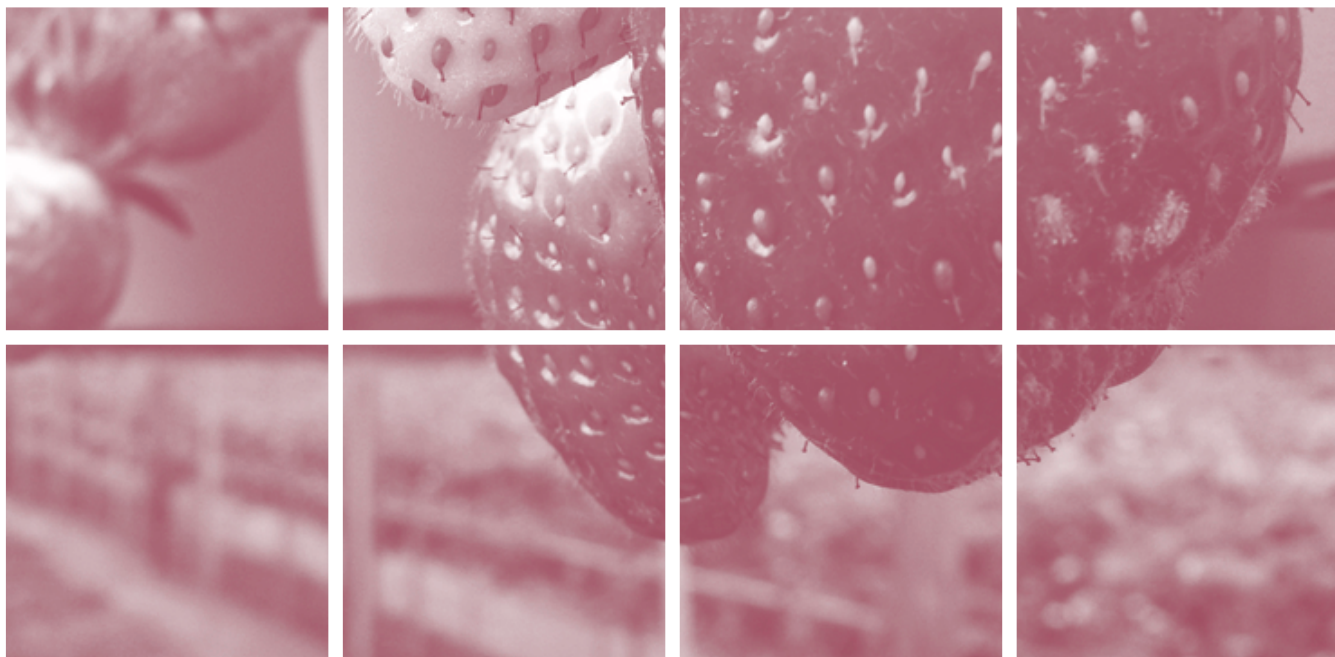
2013

SPRING

# 川崎いのちの電話

Kawasaki inochi no denwa

ひとりで悩まずに ☎ **044-733-4343**



## CONTENTS

特集

**自殺対策から学ぶ生きる支援とは？**  
～映画「希望のシグナル」の撮影現場から～  
**都鳥 伸也氏** 映画監督

相談員リレーエッセイ

**ほっとひといき**

インフォメーション

市民公開講座 「生きるということ」 **細谷 亮太氏**（聖路加国際病院副院長）  
**千住 真理子** チャリティーコンサート

自殺予防 いのちの電話

☎ **0120-738-556**

毎月10日・24時間無料です  
（午前8時～翌朝8時）

社会福祉法人 川崎いのちの電話

## 特集

# 自殺対策から学ぶ生きる支援とは？ ～映画「希望のシグナル」の撮影現場から～

映画監督 都鳥 伸也 氏

## 映画「希望のシグナル」を撮影することを決めたのは

ぼくらの映画のサポーターズクラブの方が、秋田市でNPO法人『蜘蛛の糸』の佐藤久男さんと知り合われて、その後、ぼくも佐藤さんの本を読ませていただきました。

佐藤さんは秋田県内では有名な企業を営んでいましたが、不況のあおりで会社が倒産、精神的にかなり追い込まれたことがあります。その後、知人の経営者が自殺したのを契機に、2002年、『蜘蛛の糸』を立ち上げました。自身の経験をもとに経営者の相談にのり、また、"シグナル"を発するべく新聞やテレビの取材に積極的に応えています。佐藤さんが載った記事を握りしめて『蜘蛛の糸』に相談にくる方も大勢います。

自殺について書かれた本だと、自殺する心理や自殺を決意するまでの社会的要因など、苦し

い部分を書き連ねているものが多いんです。でも、佐藤さんの本には、そういうものとは全く違って、ご自身の経験の中で考えられたことが書かれています。苦しんでいる人が気付かない部分をアドバイスしてあげるだけで、自然治癒力を復活させ、もう1度生きる力を出してもらうという活動にも共感することができました。

自殺問題というだけで捉えると難しくなってしまうですが、佐藤さんのような軸になってくださる方がいれば、映画作品として成立すると感じたのです。

## 居場所作りから始まった自殺防止活動

映画では、地域での居場所作りや、人と人とのつながりを広める活動を中心に撮っています。自殺防止対策とはいえないような段階での支援に注目したのは、ぼく自身の経験として大事なことだと実感したからです。ドキュメンタリー映画なんて儲かる仕事じゃないし、ぼくもコンビニのアルバイトで食いつなぐ毎日です。それでも続けていられるのは、地域の友達と一緒に飲んだり、そばに誰かがいて話し合えたりすることが支えになっているからです。その実感が自殺防止活動との接点になりました。

社会では、"自殺は個人の自由だ"という風潮もありますが、自殺は追い込まれた死です。孤立せずに寄り添う人がいれば、もっと生きられることが取材を通して明確になっていきました。藤里町で発足した『心といのちを考える会』の袴田俊英さんは、毎週1回、1杯100円のコーヒーサロン『よってたもれ』を開いて、集ま

## 自殺対策から学ぶ生きる支援とは？

～映画「希望のシグナル」の撮影現場から～



今回の特集は、第10回自殺防止公開講座の講師、都鳥伸也氏の講演の一部を紹介します。都鳥氏は、川崎市の日本映画学校を卒業された新進気鋭の映画監督で、これまでも優れたドキュメンタリー映画に取り組んできました。秋田県での自殺防止活動の1年間を追った映画「希望のシグナル」の撮影現場で、都鳥氏が共感し、映画で表現したかったことはどんなことだったのでしょうか。



映画「希望のシグナル」のシーンから

る人たちに寄り添っています。

自殺への対策としてはまどろっこしいのかもしれないかもしれませんが、自殺防止活動を特別なことだという感じにはしなくなかったんです。

自殺防止のための相談や、富士の樹海に入ろうとする人を止めたり、崖から飛び降りようとする人を止めたりする“セーフティ・ネット”は、とても重要だと思いますが、一たん自殺を止めたとしても、その後、その人が生き続けられるように支えていくことはすごく難しい。追い詰められる前に、誰でもできる身近な支えが、あちこちに「点描」のように存在することが大事だと思っています。

## 映画にすることの難しさ

普通のドキュメンタリー映画だと、たくさん映像があってその編集で悩むことのほうが多いので、ぼく自身、撮れないことで悩んだのは初めてでした。また、撮ったものだけで映画になるのかどうかという悩み方をしたのも、今回が初めてでした。それと、もうひとつの苦労は、アクションがないことでした。映画を制作していて、自殺防

止活動の映像にアクションがないことは痛感しましたが、映像として描きづらいものをあえて選んだのだと思うようにしていました。

作品では、撮影が中止になったり、撮っても使えないシーンがたくさんありました。『蜘蛛の糸』を訪れた相談者の撮影は、直前になって本人の精神状態がよくないということで中止になり、思っていた以上に撮影は難航しました。映画には出さないでほしいという方たちも結構いました。具体的な話を聞き出すと、どの言葉が引き金になるかわからないからと。支援する人たちにもわからないんです。

途中まで撮影してカットした例もあります。それは、同級生を自殺で失った30代の男性でした。同級生たちも自分と同じように苦しんでいるかもしれないと感じて、自分のできることを始めようとしていました。誰にでもできる支援、特別じゃない支援に注目していたので、この男性のように契約社員として食いつないでいる人が動き出したのは、一般の人にも共感できる活動じゃないかと思って撮り始めました。最終的には、彼の友人や遺族の方が反対されているのを知って断念しました。

しかし、社会の動きを描くのが、ドキュメンタリー映画の役割ではないかと思います。自殺で長男を失い、自死遺族の自助グループ『藍の会』を立ち上げた田中幸子さんは、相談者からの電話を受ける机の上に、息子さんの形見の鏡を置いています。その鏡は、後ろにある息子さんの遺影がちょうど写るようになっているのです。シナリオで書くと、わざとらしい感じですが、ドキュメンタリー映画だからこそ、彼女の活動の様子をそのまま伝えられたと思います。

ドキュメンタリー映画は、どこまで被写体に迫れるかが勝負で、ときに強引な手法もやむな

しという面があります。でも、今回はそれをしたくありませんでした。取材で会った方たちの自殺防止への取組が実を結ぶことを優先させたかったからです。

## 自殺防止対策を意識させない活動

藤里町の袴田俊英さんの本業はお寺の住職ですが、僧侶として活動しているのではありません。ただの"おじさん"として話を受け止め、コーヒーを淹れています。常連さんの一人で精神障害のある方は、いつも独学で得た宗教の知識で袴田さんに議論を挑みにきます。その方、普段は暗い表情をしているのに、サロンにいるときはニコニコしています。議論では袴田さんに負けちゃうんですが、そのやりとりが彼にとって嬉しいことなのだと思います。

袴田さんは、「自殺防止活動は、特別な人の特別な活動ではない」といいます。素人で普通の人たちが無責任なことはできないけれど、人と人をつなぐことは誰でもできると。愚痴を言ったり、ただ暇をつぶすだけの"場作り"が、自殺を考える人を引き止めています。

自殺防止対策と本人たちは意識していない、よさこい踊りのサークル『素波里 貉(すばり・むじな)』の活動も、結果的に孤立を防ぎ、自殺を防止していると感じました。参加者の中には、職を失って先が見えない人も、離婚して一人でも子どもを育てている女性たちもいるんです。そんな人たちにとって、居場所があり、仲間がいるということは、生きる力になるのだと思います。

## 「希望のシグナル」に込められたもの

『蜘蛛の糸』の佐藤久男さんが講演した時、会場から「自殺のシグナルってどうすればわかりますか」と尋ねられて、考えたそうです。死を考えている人のシグナルはなかなか見えないけれど、周りの人が『ここにすれば助かるよ』とシグナルを発することはできる、それが希望のシグナルだと。

佐藤さんは、いま死にたいぐらい苦しんでいる人を支えるためには、支える側に明るいパワーがなければ支えられないとおっしゃるんです。袴田さんも努めて明るいですよ。おふたりとも非常にいいオーラを放ってらっしゃる。これ

だけ他人に寄り添ってくれる方がいるということだけでも救われる人たちがいると思います。

また、袴田さんが「自殺防止活動で藤里の人たちと接するようになって、地元のことをよく見てなかったことに気が付いたし、いまは地元の魅力をすごく感じるようになった」と話しているのを見て、とても共感を覚えました。秋田での皆さんの取組をみていると、普通の人でも身近な人を支えることが自殺防止への活動になっています。そういうことの大切さを表現できたらと思って映画制作に取り組みました。一人でも多くの皆さんに映画を見て頂きたいし、明るく他人に寄り添うことで、希望のシグナルを出してもらえたらすごく嬉しいです。

(公開講座：平成24年11月30日、文責：川崎いのちの電話広報部)

## 映画「希望のシグナル」の紹介

日本では、毎年約3万人が自ら命を絶っています。残された家族や友人は自らを責め、悩み、ときに周囲からの偏見に苦しむ。こうした現状の中、秋田県にひとつの兆しを見つけた。日本で最も自殺率が高い地域だからこそ、先駆的な取り組みが行われていたのです。過疎化が進む地域のコミュニティを復活させたいと1杯100円のコーヒーサロンを始めた袴田俊英さん(心といのちを考える会)、中小企業の経営者を倒産ごときで死なせてたまるか!とNPOを立ち上げた佐藤久男さん(NPO法人 蜘蛛の糸)、そして、仙台市で自死遺族のための自助グループを運営する田中幸子さん(藍の会)。彼らがさまざまな人々と出会い、つながり、やがてそれが大きな流れへと至るまでを見つめます。

### PROFILE

#### 都鳥 伸也(とどりしんや)氏



岩手県北上市在住。小学6年生時に同級生らと特撮映画を撮影。その後も映像作品を作り続け、2004年日本映画学校卒。映画監督・武重邦夫氏とともに、映画『いのちの作法ー沢内「生命行政」を継ぐ者たちー』(08年)、『葦牙ーあしかびー子どもが拓く未来』(09年)をプロデュース。ドキュメンタリー映画『希望のシグナル』(12年)は初監督作品。双子の兄拓也氏が撮影・編集を担当

# ほっとい き

## — 相談員のリレーエッセイ —

### がんばっぺよ、なあ

“ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく”

いまでは、訛りを聞こうと上野駅に行ってもほとんど聞くことはない。故郷の姉と電話で話するときぐらいが唯一の機会になってしまった。

以前、自分の訛りのある話し方はとても恥ずかしかった。小学生の教科書、NHKのラジオ番組などが「標準語」だと知った頃からだと思う。でも、田舎では、背伸びして標準語を使うことがためらわれた。都会に出て標準語を使うようになって、母から受け継いだアクセントは直せないことに気付いた。いまでも自分の声を録音テープで聞くのが嫌なのは、そのような育ち方のせいだと考えている。

東日本大震災のあと、岩手、宮城、福島、茨城4県の被災地からの電話代を無料とする「いのちの電話震災ダイヤル」を、日本いのちの電話連盟と全国のいのちの電話センターとの連携で続けている。私も、いのちの電話として時宜を得た災害ボランティア活動の一つと思い、可能な限り震災ダイヤルを担当するようにしてきた。

そのささやかな活動の経験から、親族や家を失ったという悲慘さを訴える電話は僅かしかないと感じている。「語る言葉もない」ほどの茫然自失の状態からいまだに脱け出せない、そんな気持ちを抱えた被災者の方々が多いのに違いない。かつて阪神淡路大震災・被災者の心のケアを担当したことがある精神科医は言った。「多くの被災者にとって、自分の言葉で、自分の身の回りに起きた悲慘な状況を話すには、3年ぐらいの期間が必要だと思う」と。

私が受話したかぎりでは、大震災の直接の被害よりも、それに伴う地域経済とか地縁社会の崩壊による生活の建て直しの困難さ、また、被災地周辺に住む生活弱者への無理解、思いやりの欠如による生きにくさを訴える声を多く聞いた。

「これまでは、何とか生きてきたんだけど、もう、無理でねいかなと…」絞り出すような声で、生活保護費から災害義援金を差し引かれたことの不条理を訴える電話の主は言うのだった。しばらく話すうちに、いつか知らず、私も故郷の訛りでやりとりしていた。かけ手の親父さんも違和感を持たず、自然に受け入れてくれたように思う。

「がんばっぺよ、なあ あんにゃ。また、電話してけさい」

(横浜市 破笑風)

### 自殺志向相談の状況

| 年度        | 実相談件数  | 自殺志向相談件数 | 自殺志向割合 (%) |
|-----------|--------|----------|------------|
| 2002～04平均 | 14,686 | 1028     | 7.00       |
| 2005～07平均 | 14,548 | 1194     | 8.21       |
| 2008～10平均 | 14,761 | 1,478    | 10.01      |
| 2011      | 14,286 | 1,414    | 9.90       |
| 2012      | 14,791 | 1,390    | 9.40       |

注) 年間実施日数は、2007年度まで7日、2008年度から12日

自殺志向相談の割合は、2010年まで上昇し、2011年にやや低下した。更に2012年も前年を下回った。自殺者数が年間3万人を下回ったことと同じ傾向なら吉報なのですが。

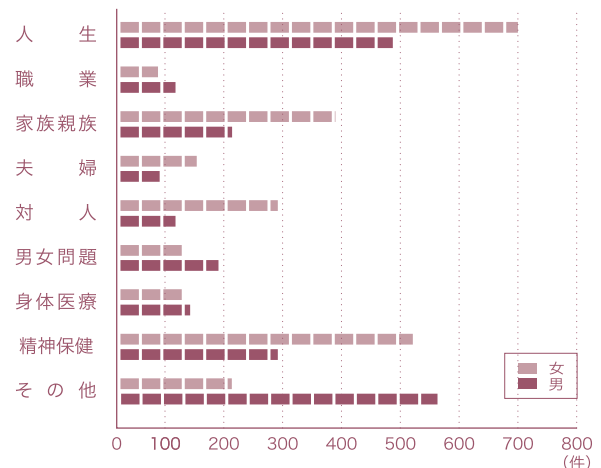
### 受信状況

2012年9月～12月

受信件数 **4,735 件** (1日平均 38.8件)

自殺志向 **404 件**

内容別・性別受信状況 (2012年9月～12月)



## インフォメーション

### 川崎いのちの電話主催

#### 1 市民公開講座

講師／細谷 亮太氏（聖路加国際病院副院長）

##### 「生きるということ」

【日時】 2013年3月21日(木) 開場 18:00 / 開演 18:30

【会場】 川崎市中原市民館 2階 多目的ホール  
JR南武線・東急東横線「武蔵小杉」下車2分

【料金】 500円 定員300名(先着順)

#### 2 千住 真理子 チャリティーコンサート

【日時】 2013年7月6日(土) 開場 13:00 / 開演 14:00

【会場】 エボックなかはら  
JR南武線「武蔵中原」下車1分

【料金】 前売券 3,500円 / 当日券 4,000円

問合せ 川崎いのちの電話事務局(月～金 10:00～17:00)  
TEL:044-722-7121



### 資金ボランティアとしてのご支援を！

川崎いのちの電話の活動は皆様の資金援助によって運営されています。  
多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

#### 【1】賛助会員年会費 下記からお選びください。

|    |      |     |     |     |     |
|----|------|-----|-----|-----|-----|
| 法人 | 10万円 | 5万円 | 3万円 | 1万円 |     |
| 個人 | 5万円  | 3万円 | 1万円 | 5千円 | 3千円 |

#### 【2】一般寄付 (金額、回数は自由です。)

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798  
社会福祉法人川崎いのちの電話

【問合せ】 川崎いのちの電話事務局 TEL: 044-722-7121

\*賛助会員・一般寄付金ともに、個人の所得税・住民税・相続税(要確定申告)  
および法人の法人税において、優遇措置の対象となります。

## 寄付感謝報告

2012年9月～  
2012年12月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### 【個人】

|           |           |       |       |           |      |       |        |
|-----------|-----------|-------|-------|-----------|------|-------|--------|
| ( 9 月 )   | 藤井たかね     | 豊後秀長  | 岩田洋子  | 山鹿文子      | 初山勝雄 | 山田美和子 | 広島晴美   |
| 加納裕生野     | 豊後秀長      | 手塚恵美  | 柴田頼子  | 村田紀子      | 山田通代 | K・S   | 嘉瀬敏    |
| 田村正忠      | 山田美和子     | 田中房治  | 松尾信子  | 石原敏光      | 田中幸治 | 鈴木清   | 大久保規矩夫 |
| 近藤俊朗      | 大石幸生      | 新井良子  | 内田三枝  | 浅田美子      | 島田恒  | 佐々木芳枝 | 若山愛子   |
| 佐藤美和子     | 安達成功      | 小島良子  | 高橋勉   | 井上美千代     | 奥秀子  | 森山定雄  | 匿名3名   |
| 久保美矢子     | 菅沼和香子     | 山田美和子 | 平井智子  | 村上カズコ     | 近藤和子 | 白井香代子 |        |
| 安藤資次      | 近藤俊朗      | 深瀬茂子  | 栗井清   | 近藤俊朗      | 佐藤史朗 | 高村真   |        |
| 豊後秀長      | 梶田みどり     | 松岡信子  | 余湖はれみ | 助川公子      | 熊野信子 | 吉澤孝彦  |        |
| 篠田喜久子     | 長掛栄一      | 石川俊恵  | 松林ゆり子 | 松本純子      | 稲川菊代 | 高橋史子  |        |
| 糸山恵美子     | 匿名2名      | 鈴木清   | 河合真   | ( 1 2 月 ) | 小林峯子 | 近藤俊朗  |        |
| 匿名4名      | ( 1 1 月 ) | 島崎祥子  | 藤野宏子  | 豊後秀長      | 豊田君子 | 田村正忠  |        |
| ( 1 0 月 ) | 藤真知子      | 秦ひろみ  | 森岡きぬ  | 浜崎すみ子     | 西村典子 | 高木圭   |        |

#### 【法人及び各種団体等】 東芝ソシシステムズ労働組合 東洋ロザイ(株) カトリック鷺沼教会 ライオンズクラブ国際協会330B5R-2Z

心に平和をカレンダー委員会 向河原教会婦人部 日本キリスト改革派東京恩寵教会 ケベック・カリタス修道女会本部修道院 川崎北ライオンズクラブ  
日本キリスト教団溝の口教会 寺嶋ヨガ生田教室 日本基督教団向河原教会 ビーズ工房松浦 募金箱 共同購入

#### 【10万円以上の個人・法人及び各種団体等】 国際ソロプチミスト川崎(10万) 市川 成一郎(30万)

川崎いのちの電話センター製作部(40万) 川崎いのちの電話新ゆり製作部(10万)

合計 2,098,504 円

■共同募金より助成金 平成24年度分配金でパソコン2台購入及びコピー機にFax機能追加

## 編集後記

年末、友人に請われ、使わずに仕舞ってあった電子レンジと寝具類をフィリピン人の母子に届けました。常夏の国から来た者にとって、知る人もない異国の冬の寒さはひととき身に堪えていたようです。今年は、例年になく寒さが厳しい冬でした。寒さばかりか、政治も経済も先行きの見えない厳しい状況にあるので、待ちに待った春の訪れが、心も身体も暖めてくれるように感じます。(T.Y)

センター事務所の老朽化に伴う建替え工事が完了し、この1月から新築のセンターで活動しています。敷地の制約で事務所の狭さは相変わらずですが、以前のような雨漏りやカビ被害に悩まされず、何よりもビルの傾斜等が解消されて安全な事務所になったことを心強く感じます。折から、相談員のリフレッシュ研修も企画されていて、新装の器に似合うような相談活動の充実が期待されます。(M.S)